

令和5年度 長崎県立川棚特別支援学校 学校評価（総括）

校訓 「明朗」・「協力」・「自立」

学校教育目標

地域の特性を踏まえた創意工夫ある教育活動を通して、児童生徒一人一人の各教科等で育成を目指す資質・能力をバランスよく伸ばすとともに、個々の児童生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって「生きる力」を育む。

重点目標

- 1 児童生徒一人一人を大切にし、それぞれの自立や社会参加を促す教育活動を充実、発展させる。
- 2 児童生徒が健康で安全に安心して生き生きと学ぶことができる教育活動や教育環境の整備を推進する。
- 3 教育課程の充実、改善を中核とし教育の質を向上させる、カリキュラム・マネジメントを推進する。
- 4 本校教育の理解啓発や地域貢献活動に取り組み、保護者や地域に信頼される学校づくりを推進する。

本年度の努力目標（重点目標を達成するための取組）

- 1—① 児童生徒の命や人権を大切にする指導に努め、いじめや体罰のない学校を目指す。
 - ② 児童生徒一人一人の障害特性や発達段階、生活年齢に応じた指導及び支援の充実を図る。
 - ③ 卒業後の進路を見据え、卒業後に進路実現ができるよう、本校が育成を目指す資質・能力（「育てたい力」）を育む取組を推進する。
 - ④ 卒業後の余暇活動につながるよう児童生徒の好きな活動及びスポーツ活動や文化・芸術活動、部活動を充実させ、生涯にわたり児童生徒の生活の質の向上につながる取組を支援する。
- 2—① 健康・安全・食・生活習慣に関する指導を通して、児童生徒の心身の健康を維持、増進する。
 - ② 支持的風土を醸成し、また、児童生徒が認められ称賛される機会を設けることに留意し、児童生徒の自尊感情や自己有能感を育む。
 - ③ 危機管理意識を高くもって緊急時対応の体制整備に努めたり、ヒヤリハット事案の改善策を共有して事故防止に努めたりする。
 - ④ 保護者の信頼にこたえる学校事務運営や学校施設整備計画の策定及び安全に留意した教育環境の整備に努める。
- 3—① 学習指導要領の理念を踏まえ、キャリア教育を中核としたカリキュラム・マネジメントを推進し、教育課程の充実を図る。
 - ② キャリアパスポートを活用して児童生徒が目当てを決めたり振り返りをしたりする学習の際に、児童生徒ができることを増やし、また、それらを高めることができるように意識して指導、支援をする。
 - ③ 自立活動の指導において、児童生徒が学習や生活の課題（つまずき）改善につなげられるよう、課題の要因と考えられることや強化すべきことを把握し、それらを向上させる指導、支援をする。
 - ④ 「育てたい力」を身に付けた姿の一覧表を活用して個別の教育支援計画の年間目標や手立てを明らかにし、その手立てを教科等の授業に取り入れる。
- 4—① 面談や様々な通信、個別の教育支援計画、キャリアパスポートなどのツールの活用を通して、本校の保護者に本校教育の理解啓発を図る。

- ② 本校の教育活動をホームページで公開したり、地域の小中学校の保護者に説明する機会をつくらせたりすることを通して、地域の人々に本校教育の理解啓発を図る。
- ③ 地域の人材や資源を活用した活動やボランティア活動、地域活性の取組に参加する活動などに取り組み、社会に開かれた教育課程の実践を目指すと共に、児童生徒が地域に貢献する取組を推進する。
- ④ 地域の関係機関や特別支援教育連絡協議会などと連携を図り、地域に根差した支援に努め、地域の特別支援教育の充実に貢献する。

1 評価方法、評価分野と評価尺度

- ① 自己評価 本校職員 9月29日 54名/56名 96.4%
- ② 評価アンケート 保護者 9月30日 74名/91名 81.3%
- 施設職員 9月30日 22名/22名 100%
- ③ 評価分野（5分野）：「学校経営」「教育活動」「組織運営」「教育環境」「開かれた学校」
- ④ 評価尺度 4：十分達成できている 3：概ね達成している
2：どちらかという達成できていない 1：ほとんど達成できていない

2 令和5年度学校評価 自己評価、保護者・施設職員アンケートによる結果と考察

(1) 集計結果

項目	職員		保護者		施設職員	
	R4	R5	R4	R5	R4	R5
1 学校経営	3.3	3.5	—		—	
2 教育活動	3.2	3.4	3.6	3.7	3.7	3.7
3 組織運営	3.3	3.4	—		—	
4 教育環境	3.2	3.4	3.7	3.7	3.7	3.8
5 開かれた学校	3.2	3.4	3.7	3.7	3.7	3.8

(2) 検討事項

- 全項目及び特記事項の中から、次の基準に照らし、検討事項を絞り込んだ。

【基準】

- ① 前年度より、平均ポイントが0.5以上、低下しているもの
- ② 平均ポイントが、2.9以下のもの
- ③ 評価2以下が6人以上のもの
- ④ 特記事項に記載があったもののうち、早急に対応する必要があるもの

- 検討事項は次のとおり。

No.	検討事項	基準
1	行事を精選したり、適切な指導内容の選択や授業時数の設定をしている。	③
2	研修会等へ積極的に参加し、専門性や技術の向上を目指している。	③
3	学習に必要な教材・教具・図書を整備している。	③
4	PTA活動が活性化するように協力し合っている。	③

(3) 検討事項に対する取組及び次年度の取組

- 別紙参照

令和5年度 学校評価取組状況アンケート結果（最終）

No.	検討事項	今回	前回
1	行事を精選したり、適切な指導内容の選択や授業時数の設定をしたりしている。	3. 4	3. 2
2	研修会等へ積極的に参加し、専門性や技術の向上を目指している。	3. 2 (3)	3. 0
3	学習に必要な教材・教具・図書を整備している。	3. 3 (2)	3. 0
4	PTA 活動が活性化するように協力し合っている。	3. 1 (3)	2. 8

* 「今回」の（ ）内の数字は、評価 2 以下を選択した人数

【来年度に向けた改善策】

- 1 回目の学校評価アンケート結果から、改善が必要な項目及び職員や保護者の意見を基に、各部及び分掌部で改善策を検討した。おおむね改善が見られているが、改善を実践する期間が短かったため、今後も継続して取り組んでいくとともに、来年度に生かせるように引継ぎをしっかりと行う。
- 日頃から取り組んでいることを継続していけるように意識付けをしたり、取組を周知したりしていく。
- 本校の取組を、校内、校外へ発信していくように努める。